

リーグ戦事業実施ガイドライン

【はじめに】

バスケットボール競技は室内競技であるため、新型コロナウイルス感染のリスクがあるスポーツです。大会会場における局所的に人が集まる場面と、大会会場までの移動場面は感染のリスクが高くなります。このウイルスの感染経路は飛沫感染と接触感染の2つですが、感染していても無症状の期間があり、自覚無く他人に感染させてしまうことと、人の身体を離れても条件によって数日は感染性を有していることがあり、誰もが知らない間にウイルスを運んでしまう危険性があります。誰かがウイルスを大会会場に持ち込み、大会がクラスターになることは絶対に避けなければなりません。

感染拡大を防ぎつつ大会を開催するためには、ウイルスの感染経路を理解した上で、大会に集う全ての人に協力を求めることと、丁寧に各局面の準備を行うことが大切です。安心して大会を行うことができるよう、下記対策について、各チームのご理解、ご協力をお願い申し上げます。

1. 事業開催に関する基本方針

本事業の開催に関しては、JBA 事業・活動実施ガイドライン第5版（2022年5月12日発表）及び沖縄県対処方針（随時更新あり）に基づき、以下の4つの項目を重視し、万全の感染症対策を講じた上で実施するものとする。尚、下記の事項について、全ての関係者（役員・審判・選手・スタッフ・保護者等）に周知し理解を求め、運営していく。

- (1) 各チームにおける感染症防止対策の徹底
- (2) 事業実施日（期間）の感染症防止対策（検温の実施、健康チェックシートの活用等）
- (3) 事業会場での3密（密集、密閉、密接）を避けるための対策
- (4) 事業前、大会期間中、大会終了後の感染症防止対策（健康観察等による感染防止対策）

2. 会場について

- (1) 可能な限り会場を増やし、密集状態の時間短縮を図る。
- (2) 可能な限り民間の公共施設を利用し、密集を防ぐ。
- (3) 会場の換気を徹底する。
- (4) チームの控え場所は、密集・密接を避けて大会会場の屋外に割り当てる。
- (5) 会場出入口、トイレ等に消毒液を設置する。

3. 事業運営について

- (1) 事業関係者（役員・審判・選手・スタッフ）は、大会2週間前から体温を計測し、健康チェックシートに記録しておくこと。記録用紙は、各自治体および学校やチームで使用している様式も可とする。
- (2) チーム関係者（スタッフや選手等）にコロナウイルス感染症疑いの有症状がある者が出た場合、チームの大会参加に関して、チーム責任者と事業実行委員会（県協会）で協議するものとする。また、濃厚接触者が出た場合は、保健所の指示を仰ぎ、大会実行委員会において対応を検討し、適切な措置を取る。発覚した際は、いずれの場合においても、チーム責任者は事業実行委員長（沖縄県バスケットボール協会U15リーグ戦委員長）へ速やかに報告すること。
- (3) 事業関係者（チームスタッフ・役員・選手・保護者）は、大会当日の体温が37.5℃以上ある場合、または、強いだるさ等の風邪症状のある体調不良者は一切参加を認めない。また、途中で体調が悪くなった場合も速やかに帰宅する。
- (4) 審判・役員は各自で弁当・飲み物を用意する。審判・役員・チーム・選手も含めて会場にゴミを出さない。

- (5) 役員（大人・生徒）は必要最小人数（関係チーム）で割り当てる。TO は、試合のないチームが担当する。
- (6) ハーフタイムで、次に試合を行うチームによるコート内での練習を認めない。
- (7) 事業に参加するチームスタッフ、選手、保護者（係 4 名以内）は、県協会から指定された ID をダウンロードし、必要事項を明記した ID カード（自チームにおいて作成）を、自チームで準備したストラップに入れ首から掲げること。
- (8) 各会場への入場の際は、ID を提示し入場する。
- (9) 登録メンバーの入場を認める。ただしベンチに入る 15 名以外の登録メンバーは、ギャラリーで待機とする。また、各チームの係に割り当てられた保護者（ビデオカメラ係 1 名、熱中症対策係 1 名、救護対応係 1 名、荷物管理係 1 名）計 4 名以内の入場も認めることとする。（全員 ID を着用）
- (10) 試合後、各ベンチは、使用したチームのコーチ又はアシスタントコーチが、自チームで予め準備したアルコール消毒液で消毒を行う。また、TO 機材に関しても、TO を担当したチームのコーチ又はアシスタントコーチが、アルコール消毒を行う。
- (11) 選手は事業参加同意書をチーム責任者へ提出する。各チーム責任者は参加同意書を保管すること。また、健康チェックシートを大会 2 週間前から実施し、大会後 2 週間保管すること。提出を求められた際は、速やかに提出できるようにする。
- (12) 本事業は、熱中症防止の観点から、各試合のクォーター毎に『メディカルタイムアウト』を設ける。その際は、選手への指示やコーチング等は一切禁止とする。
- (13) ゲーム中・ウォーミングアップ中以外はマスクを着用する。なお、熱中症対策を万全に講じながら、その場の状況（気温・湿度・喚起状況等）や選手の体調等を考慮し各チーム責任者の監督の下、臨機応変に対応を行ってください。ただし、控え場所等で、やむを得ず飲食する際は、できるだけ会話を減らし、マスクの着用をお願いします。各チーム責任者は選手管理の徹底に努め、選手が体調不良（息苦しさや違和感等）を訴える際は、マスクを着用しなくてもよいこととする。また、各チームで消毒液を準備し、随時（ハーフタイムやメンバーチェンジ、タイムアウト、待機中等の際）消毒を行う。
- (14) 各チームで練習前にボール等の消毒と手洗いを十分行う。
- (15) 各選手は、マイボトル（水筒）かペットボトルを準備すること。チームで共有するようなスクイズボトルは使用しない。
- (16) コーチや審判、相手選手との握手はしない。また、試合後の相手チームやコーチへの挨拶・握手をしない。
- (17) 試合を行うチームは、前試合のチームが体育館外に出てから入館する。館内に次試合のチームが待機できるスペースが十分に確保できる場合は、館内での待機も認める。各会場で状況が異なります。各会場責任者（総務）の指示に従うこと。
- (18) 会場敷地内の入場者を制限する。入場する際は、ID を首から下げて提示する。また、駐車場が狭小な為、各チーム保護者の駐車は 4 台以内とする。（会場によっては、駐車スペースがなく、駐車できない場合もあり得ることをご了承下さい。）
- (19) 登録メンバー及び係に割り当てられた保護者（4 名以内）以外の入場を一切認めない。入場を許可された保護者の待機場所は、基本的にギャラリーとする。会場責任者の支持に従うこと。
- (20) 入場する際は、マスクを着用し、ソーシャルディスタンスをとる。また、大声を出しての応援は禁止とする。
- (21) 関係者は、自チームの試合が終わったら速やかに退館する。

以上